

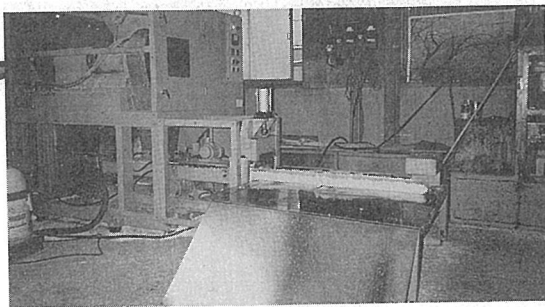
こんにちは

会社訪問記

地球のために、次代のために
限りある資源を100%リサイクル

株式会社三栄

(愛知県一宮市)



本社工場内

毎日の生活から排出される、膨大な量の発泡スチロール。最近、流通業界も積極的にリサイクルに参加しています。この素材をリサイクル専門に扱っている株式会社三栄にお伺いし、事業内容等を永瀬社長にお話していただきました。

— 最初に業務内容をお聞かせください。

永瀬社長（以下永瀬に略）『廃プラスチック類を専門に、収集運搬と溶融による中間処理をしています。主な業務は、発泡スチロールを種類別に分類し、溶かして圧縮、板状に固型化させ



永瀬社長

再利用できる素材に加工するんです。一日あたり1t位の量になりますね。発泡スチロールといっても、一般家庭から出されるトレーやスーパーから出される生鮮食品用のもの、家電製品の梱包材等、いろいろとあります。一般の方では選別しにくいのですが、プロには一目で分かりますね。きちんと分けたものを、適正な施設でリサイクル製品にするわけです。単に処理の視点から見ると、焼却という方法もあるのですが、周辺環境への影響を考えると、さまざまな問題が派生します。リサイクルという点でもあまり有効ではないと思います。』

— 貴社が加工した発泡スチロールは、すべてリサイクルに利用されているのですか。

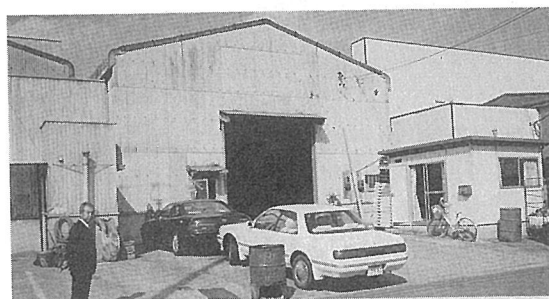
永瀬『100%リサイクルされていますね。例えば壁材とかに。使えるものは埋め立てる必要はないですよ。大きさかもしれないですが、地球のためになってます、かなり。今、リサイクル用途はカセットテープのカバーやおモチャが主体ですが、研究されますから将来はいろんなものもできるようになるはずですよ。まだ試作段階ですが、石けん箱や鉛筆立てなどが作られたりしているようです。今後さまざまな方法でリサイクルが実現すると思います。』

— 現在は何名で稼働してみえるのですか。

永瀬『現場で作業しているのは5名です。他に発泡スチロールを回収する者、夜10時まで稼働していますので、夜間の作業者などもいます。仕事量が多くて、対処するのに結構困ってしまいます。この度、西尾市に新たに工場を作りましたので、従業員数は増えますね。』

— では今後の計画は、どのような事業プランをお持ちですか。

永瀬『現在、愛知県下全域を事業範囲としているのですが、本社工場だけでは間に合わず、今回の西尾工場建設となったのですが、需要は増え続けているので、またすぐに追いつかなくなるでしょう。私の理想としては、もう一か所海部郡近辺に工場を作りたいです。県下に3か所の工場を拠点として、愛知県下全域をくまなくカバーする。さらに、隣接する静岡県や三重県まで範囲を広げたいですね。廃プラスチック類の中でも特に発泡スチロールは、リサイクルに対する可能性が高いですから、適正な処理施設を増やして、リサイクル推進につとめるべきだと思います。地球のために、次の世代のために、やり通していきたいですね。』
事業にける明確な目的と自信をもち、力強くリサイクルについて語ってくださった永瀬社長。いつまでも熱意を持ち続けて前進してください。



社名/株式会社三栄 所在地/愛知県一宮市丹陽町三ツ井南河原625番地
代表者/永瀬浩史 創業/昭和52年 従業員/6名
TEL/0586(77)6661 事業所/本社工場、東海営業所、西尾工場
営業種別/収集運搬、中間処理 取扱物品目/廃プラスチック類